



在邦朝鮮鐘

子 10
3837





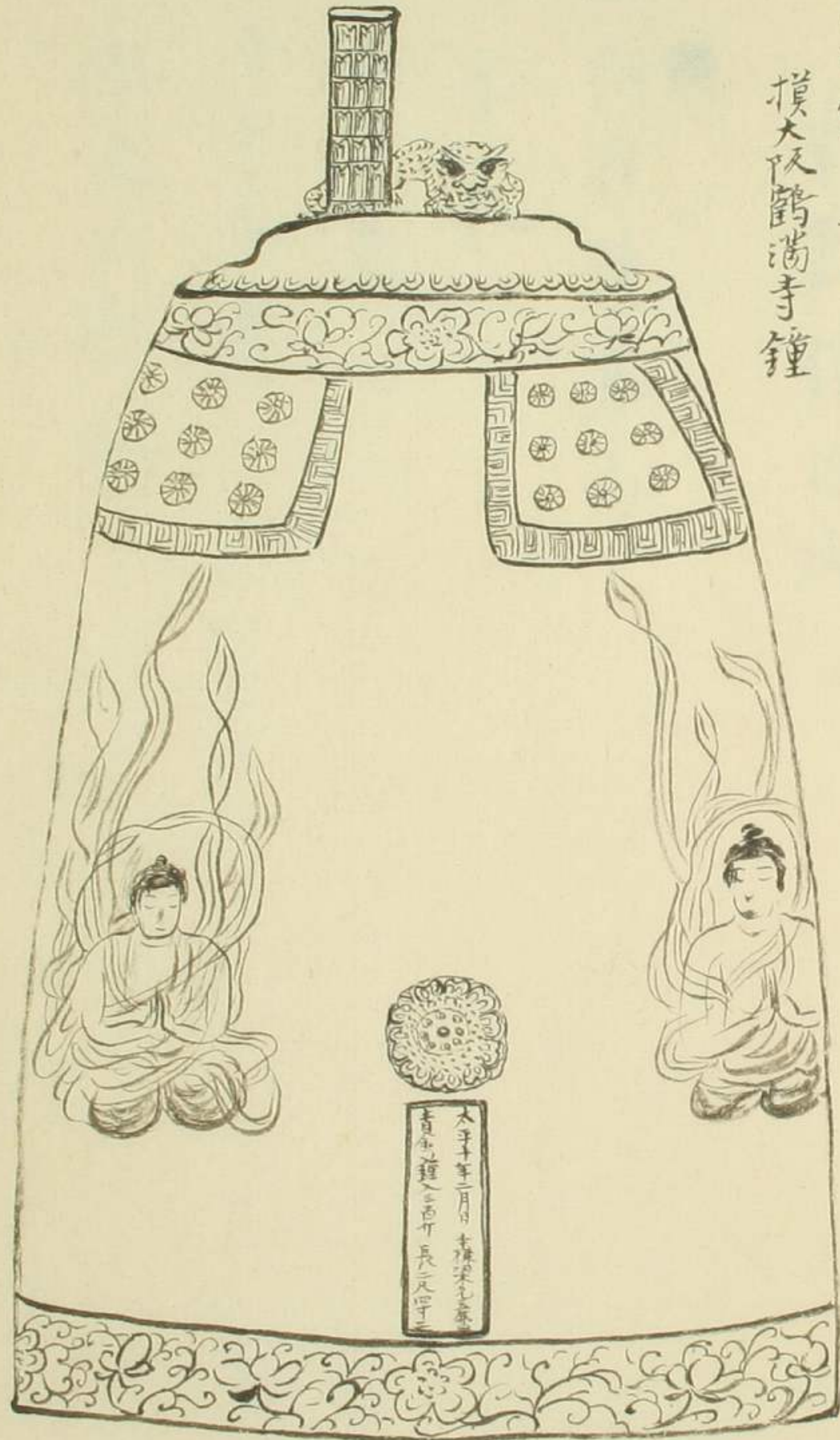
在
朝
鮮
鐘



門千 18
號 3837
卷

朝鮮鐘界圖

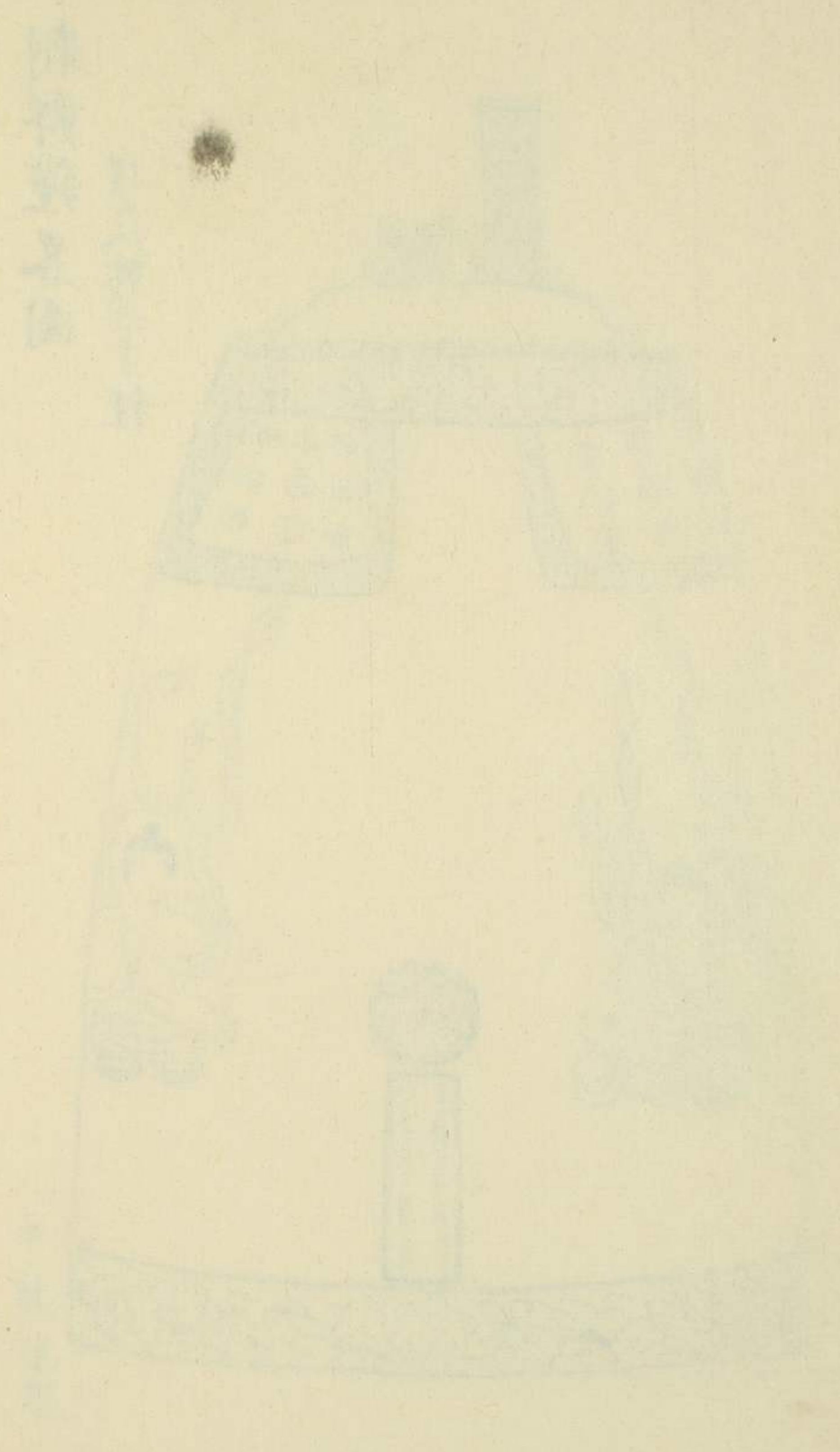
摸大匠鶴滿寺鐘



昭和十一年三月一日
市立博物館
贈

朝鮮鐘目次

- 一、朝鮮鐘畧圖、
- 一、年表
- 一、分布表
- 一、分布畧圖、
- 一、銘文及考證、



在邦朝鮮鐘年表

原錄及龜錄年	日本年號	所在社寺	所在郡町村
天寶四年(唐)	天平拾七年	對島國府入幡社	今亡 長山縣下縣郡最寄町
大和七年(唐)	天長十年	越前府宮神社	福井縣孰賀郡松原村
天復四年(唐)	延喜四年	豐前府枕神宮	福岡縣中津郡中津町
顯德三年(後周)	天曆十年	琉球波上神社	沖繩縣那霸市
政豐四年(後周)	應和三年	安藝照蓮寺	廣島縣加茂郡竹原町
天禧三年(遼)	寬仁三年	大坂正旅寺	大坂市天王寺區上ノ宮町
太平六年(遼)	萬壽三年	肥前惠日寺	佐賀縣東松浦郡鏡村

原銘及追銘並辨	日本年號	所在社寺	所在郡町村
太平十年(隆)	長元三年	大坂鶴滿寺	大坂市北區長柄町
太平十二年(隆)	長元五年	近江円満院	滋賀県大津市園城寺町
清寧五年(隆)	治曆元年	筑前承天寺	福岡縣福岡市博多
乾統七年(隆)	嘉承二年	松平子爵家	東京
明昌七年(金)	建久七年	久米家	東京
承安六年(金)	建仁元年	伊東子爵家	東京
大和六年(金)	建永元年	南部伯耆守家	東京
無原銘追銘	貞治六年	因防賀守神社	山口縣熊毛郡三井村
全	應安七年	出雲、雲樹寺	島根縣能登郡片賀庄村

無原銘追銘	康曆元年	出雲光明寺	島根縣大原郡屋敷村
全	康曆二年	筑前安養寺	福岡縣遠賀郡島郷村
成化五年(明)	文明元年	京都東本願寺	京都市下京六条
無原銘追銘	文龜二年	筑前聖福寺	福岡縣福岡市博多
全	永祿十二年	京都永源院	京都市下京建仁寺塔中
享天四月	<small>寛弘八年、延久三年、天承元年、建久二年</small>	出雲天倫寺	島根縣八束郡法吉村
享丑十二月	<small>長祿三年、康平四年、保元二年、養和元年</small>	井上侯爵家	東京
無原銘、無追銘		佐渡常安寺	新潟縣佐渡郡河崎村
全		播磨高砂神社	兵庫縣加古郡高砂町
全		鶴林寺	全縣令 郡鴉里村

朝鮮鐘分分布表

国名	神社	寺院	何人	計	国名	神社	寺院	何人	計
對島	一			一	伊豫				一
肥前		一		一	近江		一		一
筑前	一			一	新前	一			一
豊前	一			一	佐渡		一		一
長門	一			一	琉球	一			一
周防	一			一	京都		二		二
安藝		三		三	大阪		二		二
備前		一		一	東京			六	六
播磨	一			一	槍ヶ國			六	六
出雲		三		三					三
土佐		一		一					五

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	原鏡及進銘羊蹄 無原鏡、無進銘	日本羊蹄
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	備前觀音院	所在社寺
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	安藝牛心院	所在郡町村
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	大願寺	岡山縣上道郡西大寺町
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	長門徑吉神社	山口縣豊浦郡勝小村
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	筑前田清寺	福岡縣朝倉郡志波村
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	志賀島神社	全縣神戶郡志賀島村
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	土佐金剛頂寺	高知縣安藝郡室戸町
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	伊豫出石寺	愛媛縣
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	小宮三保松氏	東京

以上

朝鮮鐘所在分類

種別	神社 <small>ニアルモノ</small>	寺院 <small>ニアルモノ</small>	個人所有	
	八	二一	六	三五 <small>外一、今亡</small>
原録 <small>アルモノ</small>	四	八	五	一七
原録ナク 追録 <small>ニアルモノ</small>	一	五	〇	六
全ク無録 <small>モノ</small>	三	八	一	一二



分布圖



對島國府八幡宮鐘

長崎縣對島國嚴原町

天寶四歲乙酉思仁大角于
為賜夫只山村无盡寺鐘成
教受内成託時願助在象部
僧村宅方一切檀越并成在
願旨者一切象生苦離樂得
教受成在節雀乃秋長幢主

此の鐘、今亡滅す。



天寶四年（唐、玄宗帝）は皇紀千四百五年（西曆七四五年）

聖武天皇の天平十七年（一）に、无盡寺の所在不明

此の鐘は、新羅景徳王の世、唐の天寶四年无盡

寺の爲めに鑄造され、後、對馬山下縣野原原町

國府八幡宮に所藏され、明治初年破壊さ

れたる、幸にして、文化八年（一八六五年）福原村に於て、手杯

本残され、今、本宿原に存せり。



越前宿原神社鐘

福井縣敦賀郡松原村

太和七年三月日菁州蓮池寺

鐘成内節磚合入金七百十三延

古金四百九十八延加入金百十延

成典和上、惠明法師、緝系慈法師、

上坐、則忠法師、都乃法味法師、

郷村主、三長及手、朱雀吠余

作韓舎、寶清律師、龍碎律師

史六、三忠舎知 行道舎知
成博士 安海哀大舎 哀忍大舎
節州統、皇龍寺 覺明和上

○ 大和七年 (唐、文宗帝)

皇紀千四百五十二年 (西曆八百三三年) 淳和天皇 天長十年、

菁州は今の朝鮮慶尚南道晋州の地あり、唐の
文宗の大和七年、皇龍寺の僧覺明寺師力し
て蓮池寺の爲り、此の鐘と鑄造す。

隅に、征韓の役、大谷吉隆戦利品として將
来し、常宮神社に寄進せしものなり。

豐前守佐神宮鐘

福岡縣守佐郡守佐

天復四年甲子二月廿日
松山村
大寺鐘成口文節本和上能與本村主
連筆一合入金五千八十方合義成

○天復四年（唐、昭宗天祐元年）

皇紀千五百六十四年（西曆九百〇四年）醍醐天皇延喜四年

皆鐘、唐の鑑宗の天復四年（天祐元年）祐山村大寺
の爲りて鑄造され、後、宇佐神社に傳へられたるもの
銘文は陽鑄の九文あり

琉球波上神社鐘

沖繩縣那覇市

退火郡大寺鐘表
夫鐘者三身控名
也靜如金山應則
天雷猗哉大覺曉
度三思之群迷女
弟子明好子正朗
壽剛者上求菩提
正路下濟群生昏

衢敬造洪鍾仰歸
梵聲伏願今上聖
帝德被有載次願
國內安泰法界芒
々咸登彼岸

維顯德參季太歲丙辰五月二十五日記

彌造都領阮我鄭暄達公

禁教指揮都領
釋慧初
釋能會

都監典
村主明相鄉庚順典吉貞口能達
釋能寂景如幹如
良吉

諸樂事使內道俗并三百許人

○顯德三年（後周世宗、高麗光宗七年）

皇統千六百十六年（西曆九百五十六年）村上天皇天曆十年

國寶
正觀 照蓮寺鐘

後島縣加那郡竹原町

伐

昭大王當縣聽規沙干

峻豐四年癸亥九月十八日 古弥縣

西院鑄鐘記

徒人岩院同院主

人領玄和尚信嚴

長老曉玄上坐
砍直鄉又言明
大百十一
羅州□□百十一

○ 峻豐四年、宋太祖乾德元年、

皇紀千六百卅三年(西曆九百六十二年) 村上天皇 應和三年

國寶

○ 大阪心祐寺鐘

大阪市天王寺區上宮町

菩薩戒弟子高麗國興羅府棟梁僧友備後保戶長陪我杖尉金珪舍□□□□
聖壽天皇瑞基地次□□□□□□興立願鑄成金鐘一口重五百斤親曰者容端正聲響清高掛
於廣府內□□寺者□□謹疏

天禧三年能集己未十月日謹記

○ 天禧三年(宋真宗) 高麗恭顯宗十年

皇紀千六百七十九年(西曆千九百一十九年) 後一條天皇、寬仁三年

寺鐘は、治七年在靜か神戶で購買したとの
の追刻がある、

興麗府は今の朝鮮の蔚山である、

又様は、飛天の外に天蓋を有し、兩脇侍を有す

る佛像二軀を陽刻し、上下帯々も優麗あり

瑞花文がある、

國寶

肥前惠日寺鐘

地嶺縣東松浦郡鏡村

太平六年丙辰九月日河

清部唱曲北寺鑰鐘壹軀入

重百二十一斤棟梁僧談日

○太平六年（梁契母聖宗）宋仁宗天聖四年、高麗顯宗十七年、

皇統六年（西曆千〇六年）後一條天皇萬壽三年、

此鐘は、大阪鶴満寺の鐘と形は同形である、高二尺六寸五分、口径一尺五寸、重六二斤、銘文は陽銘である。

國寶
大阪鶴満寺鐘

大阪市北区長柄町

原 太平十年二月日

寺棟梁 元廉口口

銘 青金鐘入三音介

長二尺四寸二、

○ 追銘、

長門州厚東郡宇部郷松江山普濟禪寺、
聞鐘聲煩懣輕智惠長菩提生離地獄宗火玩願

成研度象生、

皇風永扇帝道遐昌佛日增輝法輪常轉天下太平
四海靜謐專祈諸大檀那信力彌堅善根增長
二世願望一切圓滿次冀

山門鎮靜海象咸安修行有慶進退無慮般若智
以現前菩提心而不退四恩統報三有徧資法界含情

同圓禪智

永初五年己未仲呂日



太平六年

(深(契母)聖宗太平六年)

宋、仁宗天聖八年、高麗^{高宗}二十一年

皇紀千六百九年(西曆千卅年)後一條天皇 長元三年、

此鐘は、肥前惠日寺、鐘と同型で、惠日寺の鐘

より四年後、銘述せられたものである、

追銘のある如く、鶴満寺より、以前より、長門守部の

普濟寺にありたものであるが、普濟寺が廢滅後、

元文年間、長門藩にて堤防工事の際、堀出たりと

延享年間、増忍鐘が鶴満寺と再興した時、

毛利侯より寄進せられたもので、下帯の一

部子少破損がある、高二尺四寸二分と銘文子あるが、
龍鬚下二尺五寸あり、飛文、上下帯の文様も優
雅である、



國寶

近江國滿院鐘

園城寺印
三井寺内

滋賀縣大津市

太平十二年壬午十二月日青龍大寺
鐘百六十斤大匠位金慶明棟
深元吉十四人戸長阮賢子



太平十二年(深興宗二年)宋仁宗、明道元年、

皇紀千六百九十二年(西曆千〇三十二年)後一條天皇 長元五年

國寶
筑前 承天寺鐘

福岡市博多



原銘

維清寧十一_{乙巳}年三月日

戒持寺金鐘鑄成入

重百五十斤棟梁

寺至大師智觀

大匠金水

副大匠子口未口

追銘

筑前州系天寺常
樂院之喚鐘

明應七戊午首夏十七日

傳真壽仙相勸化懸之
守塔 比立東院

○

清寧十年

梁(契苾)

道宗咸雍元年

印清寧十年

宋英宗治平三年

之助麻文宗十九年

皇紀千七百五十五年(西曆千六百一十五年)

後冷泉天皇、治曆元年

此鐘高一尺六寸五分、小形也、今は庫裡に
本堂より通ずる廻廊に懸けられたりある、
文様は、輕快翱翔の飛天と天蓋を傾ける佛
像が鑄出せしめある、

松平子爵家藏鐘

川北觀世音寺主法孫棟梁郎宗引道副三長
同士建良州史守英明贊倉史密成長士國七具
五邊介先等亦聖壽天長之愿以金鐘入重五十
斤 乾統七年丁亥二月十九日

乾統七年(隆天祚帝乾統七年) 宋徽宗大觀元年 高麗肅宗二年

皇紀千七百六十七年(西曆千七百零七年) 堀河天皇 嘉祿二年

此鐘は、集古十種に出てる。白河樂公羽の遺愛品で、今、松平家十傳に傳へられてゐる。弦高一尺五寸七分、口径一尺九分、口厚六分五厘。

川北は、今の遼陽の内の川州で、その北に、釈世音寺がある。

久米家、鐘

明昌七年丙辰四月日鑄

成金鐘一重六十七斤德

興寺懸排普勸且那同共一心

聖躬万歳上棟梁戸長金仁

鳳副棟梁南慶(讚陳蕃考)

○明昌七年(金、章宗治昌年) 宋、寧宗慶元二年

皇紀千八百五十六年(西曆千八百九十六年) 後鳥羽天皇 建久七年、

此鐘は、もと、阿波海部郡片喰村塩深の大小権現社
にありたりと、蜂須賀侯が手に入れ、更に同侯が、
明治三十八年頃久米氏が手に入れられたものとある、
高一尺五寸、口径一尺一寸三分、口厚八分

 伊東千壽家藏鐘、

承安六年六月丙酉二月造

天井寺金堂懸拵入重四十斤半、

○ 承安六年、(金、章宗、嘉祿元年^{即承安六年}) 宋、寧宗、嘉祿元年、

皇紀千八百六十五年(西曆千二百〇一年) 土御門天皇 建仁元年、

南郡伯爵家藏鐘

大中太史興威衛大將軍
知工部事大口口贊善大
夫賜紫金魚袋口躍
珍及妻上黨郡夫人韓氏
同心發意特鑄金鐘入
重漆拾五斤懸於臨津
郡善慶院以^因功德者

大和六年丙寅正月日謹記

○大和六年(金章宗泰和(大和)六年) 宋寧宗、開禧二年、

皇紀千八百十六年(西曆千二百〇六年) 土御門天皇 建永元年、

此鐘は元祿十五年陸中釜石沈み海中より引き出されたる也 南部侯の子に与られたる也 高一尺九寸 此鐘の異例は撞坐四州存する事も有る、



周防加茂神社鐘

山口縣熊毛郡

無原銘、

追銘、

諸行無常
是生滅法
生滅滅已

寂滅為樂

因防州三井村賀茂

靈祠撞鐘也

貞治六年丁未三月十五日

大願主沙彌唯心

沙彌智善

○貞治六年、皇紀二千五百七年（西曆一千五百七年）

南於後村天皇壬申年
北於後光嚴帝貞治六年

以鐘は厚銘のいりて確實なる鑄造年代と

知る事未だ出来ぬ、

飛天其の他の文様は沼河間よりあつて、前記の

追銘が鑄刻してある、

以鐘は撞坐が南部伯藏の鐘と合様四

圓あり、

國寶
出雲、雲樹寺鐘

島根縣能義町中賀莊村

無原銘

追銘

雲州瑞塔山天長雲樹興聖禪寺

應安七年甲寅十月一日

願主 宗順

○ 應安七年皇紀二千五百四十年（西曆一千七百七十四年）

長慶天皇、文中三年
後醍醐天皇、應安七年、

以鐘、吊鐘の形にして、創造年月之知多し、
又、挿は、非常の優美にて、光明寺鐘、對島公所
ハ幡ノ旧鐘等と同型である。

● 出雲 光明寺鐘

島根縣大原郡屋裏村大竹

無原銘

追銘（其一）

掛置

堪忍世界大日本國者州路
會見郡富田下郷
研日山増輝山禪院之公用矣

(龜銘其二)

干省康曆元 大荒落 歲次初五

願主沙彌 淨阿
幹緣比丘 志賢
住山沙門 繼智

此鐘者自增輝寺賣所明鏡也

福祿福田山報德禪寺為公用之

晉應永十五 着雍 霜月念二日

願主 沙彌通方

(龜銘其三)

雲乃大原郡大竹山光明禪寺洪鐘之銘

願主 契本
同 正音

明應元年壬子十一月吉日

○ 康曆元年 皇紀二千三百三十九年 西曆一千三百七十九年 後醍醐帝、即長慶天皇天授五年、

○ 應永十五年 皇紀二千六百十八年 西曆一千四百〇八年 後小松天皇、

○ 明應元年 皇紀二千五百五十二年 西曆一千四百九十二年 後土御門天皇、

此鐘も亦銘ありて、
造年月は未だ、
文様は、
波の優美で、
栗村寺の鐘と
似て居る、
高二尺七寸五分、
口径一尺七寸、
口厚一寸一分、
「堪ん世界」とは、
娑婆の世界と云ふ
意である、

○ 筑前、安養寺鐘 福岡縣遠賀郡島郷村ニ島小竹

無原銘、

追銘、

諸行無常
是生滅法
生滅已
寂滅為樂

筑前國小倉庄散在二島内
 小倉山安養寺奉懸撞鐘一口
 右志者為天長地久御願圓滿
 殊者當山佛法興隆萬民快樂
 兼又勸進結緣諸象現世安穩
 後世善處乃至法界利益平等
 故也

康曆貳年 歲次 庚申 二月時正日

阮主 厩錦秀 敬白

○ 康曆貳年 皇紀二千四十年 西曆一千三百零九年 後醍醐天皇、南朝長慶天皇、天授六年、

以鐘の子を録し、以、飛天、佛像寺は、不く、
同所質為神社の、少と同型て、ある、
以鐘の、撞坐が、四州あるこは異例て、ある、

國寶

筑前、聖福寺鐘

福岡縣福岡市博多

無原銘

追銘

連年有兵車

口口口口口

龍頭無口口口之

聲日久矣故扣十方福

門口于工匠口口口
口而口長夜破昏

筑前州

志摩郡

平等寺

口願者也

文卷二

壬戌天

十二月日

住持玄印

願主口

口合屋口口

口口口口

工匠口延

妙口

防州吉敷郡山口

本國寺住持日要

天文三年甲午三月十五日

本願主方秀

本門妙法蓮華經

斯鐘去天文二年之一乱諸軍勢

奪取之在防州山口後天文六丁酉仲冬

大内義隆被寄附本寺者也

天文六仲冬日 平等寺

住持 玄印

聖福寺 隆景

寄進

天文十七年七月日

中興住持玄熊

江氏 彫

此鐘は、原銘あり、日中、將來されたり、追録す

示す如く 辨くししなり、
又様は 非席に 優秀なるものあり、



京都 仁徳永源院鐘

京都下京区建仁寺塔中

無原銘

追銘

大日本國安藝州

高田郷吉田庄

於龍谷山大道院殿

鐘一本野村信濃入道

寄進之也

岩永祿拾貳歲巳林鐘吉日

住持口口代一

○永祿拾貳年、皇紀二千二百廿九年(西曆千五百廿九年)正親町天皇、

此鐘、十居銘あり、高二尺弱、小鐘にて、

云ふ程、

銘文は、稚拙な鐘銘である。



井上侯爵家藏鐘

天邦弟子口口

真口口口龍山

口典氏金鐘入

重四十五斤三口

辛丑十二月日造



辛丑

皇紀一六六一
西曆一〇〇一

一條天皇長祿三年

宋真宗咸平四年

遼聖宗統和十九年

全

〃

一七二一年 後冷泉天皇康平四年

宋仁宗嘉祐六年

遼道宗清寧七年

全

〃

一七八二年 鳥羽天皇保安二年

宋徽宗宣和三年

遼崇宗元德二年

全

〃

一八四一年 安徳天皇養和元年

宋孝宗淳熙元年

遼仁宗乾統四年

全

〃

一九〇一年 保元天皇仁治二年

宋理宗淳和元年

遼獻宗天興十三年

此鐘の厚録の辛丑は多少時代、辛丑か、とかく、考
考の爲、大凡の上記辛丑と現はした。



出雲 天倫寺鐘

島根縣八束郡法吉村

高麗國東萊内廻真寺師弟子釋口奉為
聖壽天長國泰人安普勸有緣
者三千餘人入香徒布檀添敬造
金鐘一軀

辛亥四月八日記

以上陽鏡、銘文のほか、鐘の鍍頭形の部分も、多く

短冊形の錯上と出でて、多数の文字あり、その多くは磨滅讀む不可なるものあり、讀む得らざる文字あり、

副棟梁光孝、法賢融談、哭叶助口、
金貞口口、夢言金口、玄僊大内、

辛亥

宋真宗天禧四年

隆聖宗統和九年 有記 一六七一

一年 一条天皇

寛弘八年

全

宋神宗熙寧四年

遼道宗咸雍七年

一七三一年 後三條天皇

延久三年

全

宋高宗紹興元年

遼德宗康國五年 金太宗天會九年

一七九一年 崇徳天皇

天承元年

全

宋光宗紹熙二年

金章宗明昌二年

一八五一年 後鳥羽天皇

建久二年

此鐘の銘の辛亥は井上候所記の辛亥と同
 可なり時代の辛亥が上記の辛亥の年代は、
 當らずと云ふ遠からざるやと云ふ事、



原銘及追銘
上七十一
鐘

枕渡 常安寺 國寶

新潟県枕渡郡河崎村

播磨 高砂神社 國寶

兵庫縣加古郡高砂町

全 鶴林寺 國寶

全 縣令 郡鴉里村

備前 觀音院 國寶

岡山縣上道郡西大寺町

陸奥 牛心院 國寶

廣島縣安藝郡牛田村

全 大願寺

全 縣令 郡嚴島町

小菅三保松氏	伊豫 出石寺	土佐 金剛頂寺	今 志賀島神社	筑前 圓清寺	長門 住吉神社
	國寶	國寶	國寶	國寶	國寶
東京	愛媛縣	高知縣 宇賀郡 屋戸町	今 縣 糟屋郡 志賀島村	福岡縣 朝倉郡 志波村	山口縣 豊浦郡 勝山村

上記の渡常寺の鐘以下の十一口は原銘、追銘と
 子におく、確たる 剣造年月は判定出来ぬ、

其の中、

播磨高砂神社、長門住吉神社の二口は高四尺余の
 巨鐘で、文様も、非常な優美である、
 他の十口は上、下帯の端を文、飛天、佛像等も在り、
 流石であるが、大願寺の鐘は喫鐘に均しい小形
 である、

